

# 「1日1講 現代文評論①」の活用について

東海大学付属熊本星翔高等学校  
澤田 裕子先生

## ■はじめに

2022年度からの学習指導要領改訂に伴い、本校では1年時に「国語総合」4単位に代わり、「現代の国語」2単位、「言語文化」2単位での取り組みがスタートしました。さらに観点別評価も本格的に導入され、これまで以上にそれぞれの教材を通して何を習得させるかを意識し、バランスよく習得できるように教材を選択することが求められています。

特に私が担当している「現代の国語」においては、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成することが明確に求められているため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動を年間に渡って取り入れることとしました。この「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動は、生徒が活発かつ意欲的に参加すればするほど、時間確保の難しさも懸念されることとなります。2単位という制限の中で、明らかに教授内容が飽和状態に陥ってしまうこととなり、その対応策として「1日1講 現代文評論①」の採用に至りました。



## ■活用方法

### ① 幅広い題材を週末課題として活用

教科書の内容では限られた教材しか扱えない状況の中、本誌の教材は幅広い内容になっており、授業で不十分な観点も必然的に網羅して取り組ませることができる。

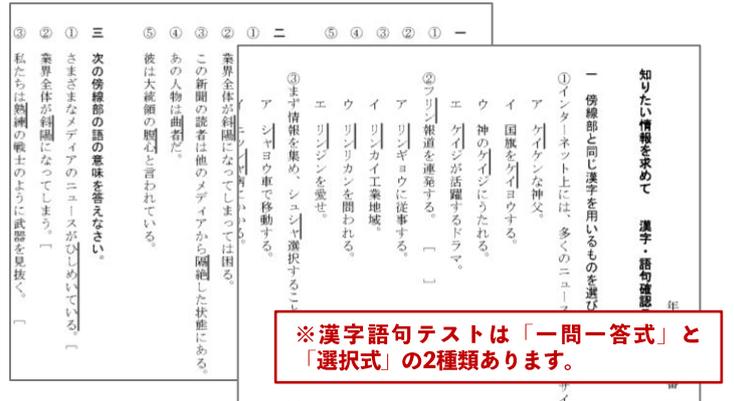
14	デジタルの学知の味	10	「拘り」の本質は省エネ
13	「自分らしさ」など	9	「自由」の意味
12	楽観主義	8	主観と客観のあいだ
11	夢の叶え方を知ろう	7	子ども医療は誰が決めるのか
10	サイエンスの視点、	6	方言の誇り
9	魂の旅	5	「意味」を超える
8	食と農業の可能性	4	「先生」にならなくても
7	複数のカテゴリー	3	友達とは、条件なの承認をくれる人?
6	見えないことと目	2	「間」を知る人
5	数学の贈り物	1	単純な脳、複雑な「私」
4	継続するジャボニスム		
3	表情を作る筋肉の話		
2	承認の物語		
1	知りたい情報を求めて		

▲ 本冊目次  
全部で30教材です。

◀ 速トレ目次  
全部で20教材です。

### ② 定期的に漢字語句の小テストを実施

漢字語句を紙面内の問題として設定されてしまうと、その箇所しか学習しなくなってしまう。本誌の学習パターンでは、指導用データの確認テストに取り組みつつ生徒自ら本文から漢字語句を抽出して学習することになるので、主体的な学びにもつなげることができる。



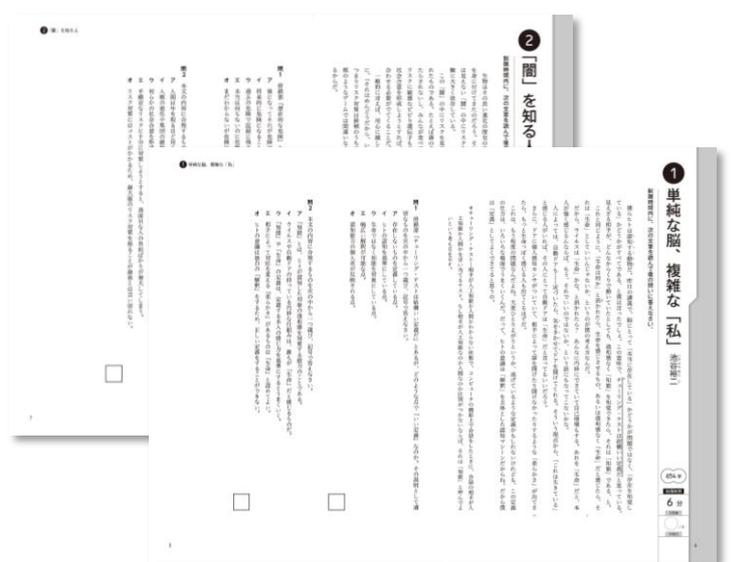
### ③ 定期試験には付属データで対応

定期試験出題に際しては指導用データにある発展問題を実力問題として出題し、観点別評価「思考・判断」として評価する。



### ④ 「速読トレーニング」で実力試験対策

「速読トレーニング」は2学年進級後に実施される実力試験対策として、1学年で3学期末から春休みにかけて取り組ませる。



本校は1学年12クラスで、教科担当者も複数いる。「発展問題」として用意された指導用データを使用することにより、作問者による出題の偏りが解消され、適正な評価が可能となる。

## ■採用に至ったポイント

- ① 学習指導要領の改訂に伴った、多様な観点を踏まえた教材が選択されていること
- ② 本誌の問題に漢字語句問題が設定されていないこと
- ③ 「速読トレーニング」が別冊で付録されていること
- ④ 指導用データに本誌関連の実力問題があること
- ⑤ 指導用データに漢字語句問題があること



## ■おわりに

まだ年度が終了していませんが、真面目に取り組んでいる生徒は着実に力がついているようです。特に定期試験での発展問題の取り組みにその結果が表れるので、今までになく問題集の活用が実感できています。

また、3年生の総合進学クラスでも同じ問題集を採用し、同様に取り組ませています。3年生にとっては比較的易しい内容にはなりますが、だからこそ継続しやすいようです。本校の総合進学クラスの生徒の9割近くが推薦入試で進学先を決定します。多種多様な文章に日頃から触れておくことが、小論文試験の対策にもつながります。

加えて、ここ数年危機感を感じていることに、漢字力の低下があります。その要因の一つとして、小学校からタブレットが導入されており、漢字を覚えていなくても文字変換機能により活用できてしまうという状況があります。小学生に手書きで文章を書かせると平仮名が多いのに、タブレットで新聞やまとめをさせると当たり前漢字が用いられた文章が仕上がるという状況が実際に起こっています。高校生においても、以前は漢字の書き取りは苦手でも読みは得意という生徒が多かったのですが、漢字の書き取りどころか読みも苦手な生徒が増えています。本誌で「文章から漢字を自らピックアップし、習得する」という当たり前の学習に取り組ませることは、

主体的に漢字語句を学ぶことにつながります。この取り組みは継続していきたいと思っているところで

す。昨年度（2021年度）は今年度（2022年度）からの新課程の取り組みに向けて、学習指導要領に即した授業展開が実践できるか不安になりながらシラバス検討を進めていました。そこに、三省堂さんから本問題集をご提案いただき、採用を即断いたしました。実際の運用にあたっては国語科の他の担当者にも好評で、次年度は他分野でも導入予定です。

高校生活は、新たな刺激の中から、自らの人生をいかに自ら構築していくかを考える時期となります。この20年、国語を担当するにあたって、「伝える力を育む」をテーマとして教壇に立ってきました。国語は授業を通して、時に筆者になりかわって新たな世界観、新たなものの見方、考え方を伝えることができます。そして、教材に触発された生徒それぞれが、自らの思いや考えを育み発信することができます。これは現代文でも古典でも変わりません。時節に目を向け、社会情勢に目を向け、それら日常を教材に結び付けて取り組むことができる魅力が国語にはあります。多様な教材を通して、私自身も生徒と共に成長していくことを楽しんでいきたいです。

東海大学付属熊本星翔高等学校  
澤田 裕子

## ■1日1講シリーズのご紹介



### 三省堂編修所 編

#### ■書誌情報

B5判・本冊64頁  
(『文学』のみ96頁)  
定価902円(本体820円+税)

#### ■付属品

- ・別冊速読トレーニング / 解答解説
- ・ことまなSアプリ(練習問題)
- ・指導用データ (発展問題/確認テスト/原文集/要約学習シート(『現代文評論①②』のみ)/文法・句法シート(『文学・古典』のみ))